

# 平成27年度 病害虫発生予察情報

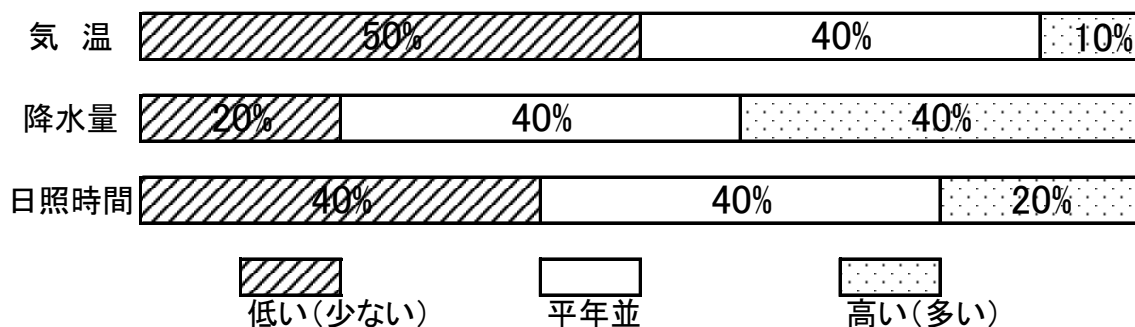
## 発生予報第7号（9月）

平成27年9月4日  
島根県

### 予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量	
普通作物	イネ	穂いもち	平年並～やや多い	
		紋枯病	やや多い	
		白葉枯病	少ない	
		ツマグロヨコバイ	平年並	
		トビイロウンカ	平年並	
		斑点米カメムシ類	平年並～やや多い	
果樹	ダイズ	ハスモンヨトウ	平年並	
		ナシ	黒斑病	平年並～やや多い
			シンクイムシ類	平年並
	カキ	ハダニ類	平年並	
		カメムシ類	やや少ない	
		うどんこ病	平年並	
野菜	アブラナ科野菜	カキミガ	平年並	
		カメムシ類	やや少ない	
		アブラムシ類	平年並	
		コナガ	少ない	
		アオムシ	少ない	
		ハスモンヨトウ	やや少ない	

中国地方1か月予報(9月5日～10月4日・広島地方气象台9月3日発表)  
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



#### A. 普通作物

##### 1) イネ

##### (1) 穂いもち

予報内容

発生地方

県内全域（きぬむすめ等で出穂期の遅いもの）

発生量

平年並～やや多い

予報の根拠

①きぬむすめの一部で葉いもちの発生が認められる。

②向こう1か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

##### (2) 紋枯病

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

やや多い

予報の根拠

- ①全般の発生量はやや多い。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(3) 白葉枯病

予報内容

発生地方 常習発生地  
発生量 少ない

予報の根拠

- ①全般の発生量は平年に比べて少ない。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(4) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ①8月31日～9月2日の巡回調査では、捕獲虫数20.6頭/50株（平年45.1頭）、発生圃場率43.8%（平年74.0%）で発生量は平年並みである。
- ②8月第6半旬までの予察灯への総誘殺数は1,116頭（平年420.8頭）で平年に比べてやや多い。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ①8月31日～9月2日の巡回調査では、捕獲虫数1.5頭/50株（平年4.1頭）、発生圃場率39.6%（平年33.7%）で発生量は平年並みである。
- ②8月第6半旬までの予察灯への総誘殺数は2頭（平年13.1頭）で平年並みである。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(6) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①8月31日～9月2日の巡回調査では、捕獲虫数2.2頭/20回振り（平年2.3頭）、発生圃場率35.0%（平年50.9%）で全般の発生量は平年並みであるが、クモヘリカメムシについては捕獲虫数1.2頭/20回振り（平年0.3頭）発生圃場率27.5%（平年12.4%）で平年に比べてやや多い。
- ②斑点米カメムシ類の優占種はアカスジカスミカメとクモヘリカメムシである。
- ③8月第6半旬までの予察灯へのアカスジカスミカメの誘殺数は283頭（平年209.8頭）で平年並みである。
- ④向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

2) ダイズ

(1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ①現在、巡回調査での本種幼虫による1a当たりの白変か所数は0.4か所（平年0.4か所）で平年並みである。
- ③フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の累積誘殺数は、県東部で平年比98.8%、県西部で118.1%とほぼ平年並みである。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 ナシ（二十世紀）栽培地帯

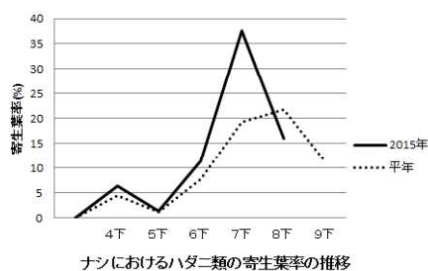
発生量 平年並～やや多い  
 予報の根拠  
 ① 8月下旬の巡回調査では発病葉率は13.1%（平年15.8%）であり、平年並みである。  
 ② 向こう1か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(2) シンクイムシ類

予報内容  
 発生地方 ナシ栽培地帯  
 発生時期 平年並  
 発生量 平年並  
 予報の根拠  
 ① 予察圃場（安来市・出雲市）のフェロモントラップでのナシヒメシンクイ雌成虫の誘殺盛期、誘殺数とも平年並みである。  
 ② 向こう1か月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。

(3) ハダニ類

予報内容  
 発生地方 ナシ栽培地帯  
 発生量 平年並  
 予報の根拠  
 ① 8月下旬の巡回調査では、寄生葉率は16.0%（平年21.7%）で平年並みである。  
 ② 向こう1か月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。



(4) カメムシ類

予報内容  
 発生地方 ナシ栽培地帯  
 発生量 やや少ない  
 予報の根拠  
 ① 予察圃場（出雲市）の8月第6半旬までの予察灯でのカメムシ類の誘殺数は181頭（平年1910.6頭）とやや少ない。  
 ② 向こう1か月の気象は本種の発生に特に助長する要因とはならない。

2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容  
 発生地方 カキ栽培地帯  
 発生量 平年並  
 予報の根拠  
 ① 8月下旬の巡回調査では発病葉率は6.2%（平年10.7%）であり、平年並みである。  
 ② 向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) カキミガ（第2世代）

予報内容  
 発生地方 カキ栽培地帯  
 発生量 平年並  
 予報の根拠  
 ① 第1世代幼虫による芽および果実の被害は平年並みである。  
 ② 向こう1か月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。

(3) カメムシ類

予報内容  
 発生地方 カキ栽培地帯  
 発生量 やや少ない  
 予報の根拠  
 ① 予察圃場（出雲市）の8月第6半旬までの予察灯でのカメムシ類の誘殺数は181頭（平年1910.6頭）とやや少ない。  
 ② 向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

C. 野菜

1) アブラナ科野菜

(1) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並

予報の根拠

①現在、巡回調査での発生圃場率は30.0%（平年73.8%）、寄生株率は3.0%（平年15.1%）でやや低い。

②現在、黄色水盤への有翅虫の飛来量はやや多い。

③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) コナガ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 少ない

予報の根拠

①現在、巡回調査での発生圃場率は0%（平年20.6%）、寄生株率は0%（平年2.5%）で低い。

②向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) アオムシ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 少ない

予報の根拠

①現在、巡回調査での発生圃場率は10.0%（平年42.3%）、寄生株率は1%（平年10.5%）で低い。

②向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

①現在、巡回調査での発生圃場率は0%（平年14.1%）、寄生株率は0%（平年2.3%）で低い。

②フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の累積誘殺数は、県東部で平年比98.8%、県西部で118.1%とほぼ平年並みである。

③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

**島根県病害虫防除所**

(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>